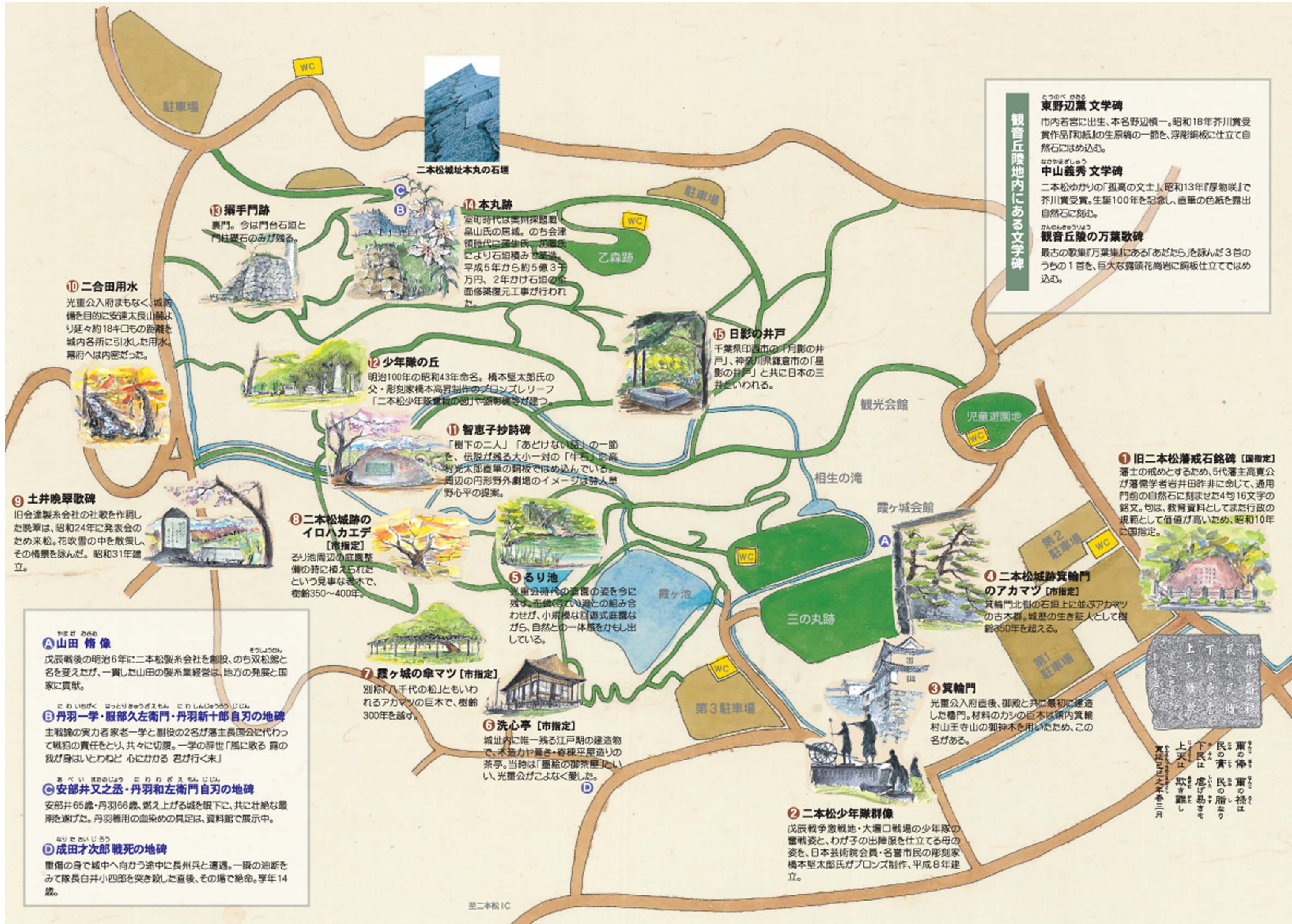




観音丘陵地内にある文学碑

東野辺 文学碑
市内若宮に出生、本名野辺慎一。昭和18年芥川賞受賞作品『和紙』の生原稿の一節を、浮彫銅板に仕立て自然石にはめ込む。

中山義秀 文学碑
二本松ゆかりの『孤高の文士』。昭和13年『厚物炭』で芥川賞受賞。生涯100年を記念し、画筆の色紙を露出自然石に刻む。

観音丘陵の万葉歌碑
最古の歌集『万葉集』にある「あだたら」を詠んだ3首のうちの1首を、巨大な露頭花崗岩に銅板仕立てではめ込む。

1 旧二本松藩戒石銘碑【国指定】
藩士の戒めとするため、5代藩主高寛公が藩儒学者岩井田昨非に命じて、通用門前の自然石に刻ませた4句16文字の銘文。句は、教育資料としてまた行政の規範として価値が高いため、昭和10年に国指定。

4 二本松城跡寅輪門のアカマツ【市指定】
寅輪門北側の石垣上に並びアカマツの古木群。城歴の生き証人として樹齢350年を超える。

3 寅輪門
光重公入府直後、御殿と共に最初に建造した櫓門。材料のカシの巨木は城内質村山王寺山の御神木を用いたため、この名がある。

2 二本松少年隊群像
戊辰戦争激戦地・大塩口戦場の少年隊の奮戦姿と、わが子の出陣服を仕立てる母の姿を、日本芸術院会員・名誉市民の彫刻家橋本堅太郎氏がブロンズ制作、平成8年建立。

14 本丸跡
室町時代は奥州探題畠山氏の居城。のち会津藩時代に藩生民・藩政により石垣積みで築造。平成5年から約5億3千万円、2年かけ石垣の全面修築復元工事が行われた。

12 少年隊の丘
明治100年の昭和43年命名。橋本堅太郎氏の父・彫刻家橋本高野制作のブロンズレリーフ「二本松少年隊奮戦の図」や銅像等が建つ。

11 智恵子抄詩碑
「樹下の二人」「あどけない話」の一節を、伝説が残る太一対の「牛石」の彫刻家橋本高野制作の銅板ではめ込んでいる。周辺の円形野外劇場のイメージは詩人早野心平の提案。

8 二本松城跡のイロハカエデ【市指定】
るり池周辺の庭園整備の時に植えられたという見事な老木で、樹齢350～400年。

5 るり池
光重公時代の遺蹟の姿を今に残す。布陣図や堀との組み合わせが、小規模な庭園式庭園ながら、自然との一体感をかもし出している。

7 霞ヶ城の傘マツ【市指定】
別称「八千代の松」ともいわれるアカマツの巨木で、樹齢300年を越す。

6 洗心亭【市指定】
城址内に唯一残る江戸期の建造物で、木造力や書き・奇碑平屋造りの茶亭。当時は「墨絵の御茶屋」といって、光重公がこよなく愛した。

13 搦手門跡
裏門。今は門台石垣と門柱礎石のみが残る。

10 二合田用水
光重公入府まもなく、城防備を目的に安達太良山麓より延々約18キロもの距離を城内各所に引水した用水。幕府へは内密だった。

9 土井晩翠歌碑
旧会連製糸会社の社歌を作詞した晩翠は、昭和24年に発表会のため来松。花吹雪の中を散策し、その情景を詠んだ。昭和31年建立。

A 山田 脩 像
戊辰戦後の明治6年に二本松製糸会社を創設、のち双松製と名を変えたが、一貫した山田の製糸業経営は、地方の発展と国家に貢献。

B 丹羽一学・服部久左衛門・丹羽新十郎 自刃の地碑
主戦論の實力者老一学と副役の2名が藩主長岡公に代わって戦羽の責任をとり、共に切腹。一学の辞世「風に散る 露の我が身はいとわねど 心にかなる 忍び行く末」

C 安部井又之丞・丹羽和左衛門 自刃の地碑
安部井65歳・丹羽66歳、奮え上げる城を眼下に、共に壮絶な最期を遂げた。丹羽着用の血染めの具足は、資料館で展示中。

D 成田才次郎 戦死の地碑
重傷の身で城中へ向かう途中に長州兵と遭遇。一瞬の油断をみて隊長白井小四郎を突き殺した直後、その場で絶命。享年14歳。

上 下 民 藩
天 民 公
は 民 公
欺 民 公
難 民 公
し 民 公
三月 民 公